

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
29-23	高等学校	芸術	美術Ⅲ	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	美Ⅲ 304	高校生の美術 3		

I. 編修の基本方針

○本教科書においては、教育基本法第二条に示される教育の目的を達成するために、七つの具体的な基本方針を定め、編修に努めた。

- ・ 二条第一号は①と②に、第二号は③に、第三号は④に、第四号は⑤に、第五号は⑥と⑦に対応している。

第二条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 二 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 三 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 四 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 五 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

○教科書編集に関する具体的な基本方針

①幅広い知識と教養を身に付ける

絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現、鑑賞について幅広く学べるように内容やバランスを考慮しつつ、他者の作品から発想する美術、彫刻における着彩、データなどを可視化したデザイン、デザインを支える技術などについて考える独創的なテーマを設定し、より学びが深められるように題材を構成した。

②豊かな情操と道徳心を培う

芸術としての美術の学びを重視し、表現することの意義や美術の多様な考え方、作者の心情などをより深く理解できるように題材や記述内容を工夫した。これにより、自己や他者の考えや作品を大切にする心、よさや美しさを大切な価値とし、それを求めようとする心などが育成されることをねらいとした。

③個人の価値を尊重し、創造性を培い、勤労を重んずる態度を養う

主題の生成や作者の意図と表現の工夫を重視し、生徒が感性や創造性、個性を発揮しながら自己の価値意識をもって表現や鑑賞ができるように題材や記述内容を工夫した。加えて、ポートフォリオの制作などを通して、自分の学習を振り返り、互いの個性を認め合えるように配慮した。また、時間をかけて集中して制作に取り組む中で、努力することのよさや達成感が味わえるような授業を目指す教科書づくりに配慮した。

④正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力、社会形成に参画する態度を養う

鑑賞活動において、美術の多様な考えを理解し、他者との学び合いや話し合いの場を通して、学びの中から正義と責任、男女の平等、自他の敬愛を重んずる心情を培えるようにした。また、社会の様々な場で用いられるデザインや報道写真などについて考えることで、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるような題材を盛り込んだ。

⑤生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する

自然のよさや美しさを見つめ直したり、自然との共生や環境との調和から美術を考えたりする題材を設定し、自然を大切に、美しい環境を保全していく態度の形成に寄与する教科書づくりに配慮した。

⑥伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する

日本や西洋の美術の鑑賞題材の充実を図るとともに、日本文化を代表する歌舞伎について、衣装や化粧などの美術的側面から取り上げ、伝統や様式美などの知識等を学びながらよさが実感できる題材を盛り込んだ。また、日本の絵画が西洋画と出会う中で影響を受けながら発展してきたことなどを取り上げ、継承することと創造することのよさなどを理解できるようにした。資料ページでは、文化財の保存と継承をテーマに、美術の文化財を継承することの大切さを学べるように配慮した。

⑦国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う

自己の表現とともに他者の表現も大切にしている心情や、自国の文化とともに他国の文化を尊重する態度などを育成することで、美術による人間理解や国際理解が深められ、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことのできる内容にした。

II. 対照表

○本教科書は学習指導要領に示されている内容の構成に基づき、生徒の学習のしやすさを考慮してオリエンテーション、絵画・彫刻など（表現・鑑賞）、デザイン（表現・鑑賞）、映像メディア表現（表現・鑑賞）、鑑賞、資料に分類している。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や留意点	該当箇所
オリエンテーション	① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。 ② 美を感じる対象が、人により相違や共通性があることを再認識させ、互いの価値を尊重して自身の価値観について考えることは、創造性を培い自主自立の精神を養うことに通じる。生徒にその機会を与えるべく編修に努めた（第二号）。	①p. 2・3 ②p. 2・3

<p>絵画・彫刻など</p>	<p>① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。</p> <p>② 一人一人のよさや個性が尊重され、その能力を十分発揮する中で、相互に創造性を高め合うことができるような表現と鑑賞の活動を充実させた（第二号）。</p> <p>③ 自他を見つめ、それぞれの個性を尊重し生命を尊ぶ態度や、身近な環境や自然を見つめて美しさを発見し、環境の保全に寄与する態度を育む機会となる内容を設けた（第四号）。</p> <p>④ 日本や西洋の美術の鑑賞題材の充実を図るとともに、日本の絵画が西洋画と出会う中で影響を受けながら発展してきたことなどを取り上げ、我が国や諸外国の美術文化への理解が深まるように配慮した（第五号）。</p>	<p>①p. 8～25</p> <p>②p. 8～25</p> <p>③p. 8～25</p> <p>④p. 8～25</p>
<p>デザイン</p>	<p>① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。</p> <p>② 第一線で活躍する建築家の考え方などに触れることで、デザインの目的や考え方を理解し、デザインの仕事が日常生活と密接していることや、デザインの仕事に対する意識を高められるよう配慮した（第二号）。</p> <p>③ 身近な生活から広く社会全般を見つめ、課題を発見し、造形を通して課題を解決する能力を培うことは、社会正義と自らの責任を重んじ、主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度を養うことになる。デザインの表現と鑑賞の活動を通して、その能力を培えるよう配慮した（第三号）。</p> <p>④ 身近な環境や自然を見つめて美しさを発見し、造形に生かす力を培うとともに、環境の保全に寄与する態度を育めるよう配慮した（第四号）。</p>	<p>①p. 26～33</p> <p>②p. 26～33</p> <p>③p. 26～33</p> <p>④p. 26～33</p>
<p>映像メディア表現</p>	<p>① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。</p> <p>② 身近な生活から広く社会全般を見つめ、課題を発見し、造形を通して課題を解決する能力を培うことは、社会正義と自らの責任を重んじ、主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度を養うことになる。映像メディア表現の表現と鑑賞の活動を通して、その力を培えるよう配慮した（第三号）。</p>	<p>①p. 34～39</p> <p>②p. 34～39</p>
<p>鑑賞</p>	<p>① 美術の鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。</p> <p>② 日本人の美意識や伝統文化について理解を深めるとともに、現代の美術の多様な考え方を学び、時代や地域などを超えた美術や文化の理解が深まるように配慮した（第五号）。</p>	<p>①p4～7</p> <p>②p4～7</p>
<p>資料</p>	<p>① 美術の文化財について保存と継承の視点から学ぶことは、幅広い知識と教養を身に付け、美を求め大切にすることを養うとともに、我が国の伝統と文化を尊重し、他国を尊重して国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことに通じる。そのようなねらいをもって、保存と継承に関する資料を設定した（第一号、第五号）。</p>	<p>①p. 40～41</p>

	<p>② 様々な美術を学びながら、自分がこれまで表現した作品や鑑賞のレポートなどを整理し、まとめることを通して、自己の学びを振り返り真理を求める態度を養う。加えて、互いの価値を尊重するとともに、努力し継続することの大切さを実感することに通じると考え、ポートフォリオに関する資料を設定した（第一号、第二号）。</p> <p>③ 美術の活動は単に作品を表現したり鑑賞したりするだけではなく、美術は身近に存在し、意識することで、よさや美しさなどを感じ取ったりつくりだしたりすることができる。生活を心豊かなものにしていく観点から、美術の働きを捉え、自己の生き方の形成につながるように配慮した（第一号、第二号）。</p>	<p>②p. 42～43</p> <p>③p. 44～45</p>
--	---	-----------------------------------

Ⅲ. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

（１）学習の課題を設置

- ・表現題材に具体的な表現課題を設置し、学習の視点が明確に分かるようにリード文やねらい、作者の言葉などを記載した。表現活動における発想や構想の考え方や制作のプロセスを参考にできるよう努めた。

（２）学習内容の関連を重視

- ・教科書を学習資料として一層使用しやすくし、生徒の学習効果が高まることを期待して、掲載内容に関連する項目が他のページに掲載されている場合、関連ページを参照できるようにリンクを記載した。

（３）他教科との関連を重視

- ・日本史や世界史などの教科書に掲載されている美術作家や作品、文化、家庭科で取り上げられている住生活のデザイン、インタビュー記事など、他教科で取り上げられている内容を研究し、積極的に教科書の紙面に反映させることで、他教科との関連を図り、生徒の学びが一層深まるように配慮した。

（４）言語能力の育成

- ・鑑賞活動では生徒同士の意見交換が深まるよう、鑑賞のポイントなどを掲載し、話し合いを促すような工夫を凝らした。
- ・絵画や彫刻、デザインの活動では、制作者の作品や表現に対する考えを言語で分かりやすく掲載し、自分の考えを言語化し、伝えることの大切さについて学べるよう配慮した。

（５）社会との連携

- ・作家の表現への考え方や生き方への理解を深めたり、生活や社会の中のデザインの働きなどを幅広く学んだりすることで、実生活や実社会を意識しながら、生徒が意欲的に学習できるように工夫した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
29-23	高等学校	芸術	美術Ⅲ	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	美Ⅲ 304	高校生の美術 3		

I. 編修上特に意を用いた点や特色

○本教科書は「高等学校学習指導要領 第1章 総則」、及び「第2章 第7節 芸術」、「第2款 第6 美術Ⅲ」に示された趣旨並びに目標や内容を基にして、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高めることができるよう、以下の各項目において特に意を用いて編修した。

(1) 実態調査を基にした題材設定

・幅広い視点からより深く美術を理解して創造活動を体験し、豊かな美的体験ができるよう、高校生の実態を把握した上で、生徒が親しみやすく興味をもつような作家や作品、テーマを取り上げ、気付きや視点をもつことで学びが深まるような題材を配列した。

①多くの学校で取り組まれている、風景や建物を描く題材では、全体を描いたり、部分を拡大して描いたり、イラストのようにして伝えたりするなど、様々な描き方や考え方を学び、自分に合った描き方や好きなものを楽しく描くことを提案するなど、高校生の関心や意欲を高めながら主題性のある表現を追求できるようにした。

②他者の作品から発想する美術、彫刻における着彩、データなどを可視化したデザイン、デザインを支える技術など、新しい視点から美術を深く学べるような題材ページを設定した。表現する際にそれらの視点を意識し、生かすことで主題がより追求されるように工夫した。

(2) 参考作品を幅広く豊富に掲載

・生涯にわたり美術を愛好する心情を育てられるよう、身近な内容から普遍的な価値をもつ美術作品まで幅広く掲載し、多方面から興味をもって学習に取り組めるよう留意した。

①身近なものの美しさや風景などを見つめ直す題材や、生活や社会の中のデザインや建築などを取り上げた題材など、身近な自然や生活、社会の中から題材を設定し、豊かに美術を意識できるようにした。

②西洋の著名な作家や日本の美術などについて、複数の図版や丁寧な解説を加えることにより、興味・関心や理解が深まるようにした。

(3) 明確な学びの視点と学習のねらい

・感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高められるよう、各題材に学びの視点を明確に示し、生徒が意図をもって学習に取り組めるよう留意した。

①題材の本文等に見方や感じ方、考え方などの学びの視点を盛り込み、見方や感じ方を豊かにしながら、新たなものの捉え方や主題生成などができるようにした。

②各題材に、分かりやすく短い言葉で学習のねらいを明確に示した。

(4) 美術文化に関する学びの充実

・美術文化についての理解を深められるよう、我が国の美術や文化に関する題材、文化財の保存と継承に関する資料などを掲載した。

①日本家屋や歌舞伎などの我が国の伝統や文化の中にある美術を取り上げるなど、幅広い視点から美術文化を深く学べるように配慮して作品を選択した。

②文化財の保存と継承に関する資料を掲載し、修復や技術の伝承、公開と劣化、デジタル技術などによる複製の制作など、幅広い観点から美術文化の継承と創造について理解を深め、美術文化を尊重する態度の育成につながるように工夫をした。

(5) 振り返りによる学びの深化

・自分がこれまで表現した作品や鑑賞の成果物などを整理してまとめるポートフォリオの制作に関する資料を掲載し、振り返りにより学びが深められるように工夫をした。

①ポートフォリオを作成することで、自己の学びを振り返り学びを深めるとともに、互いのよさを認め合い、努力して学び続けることの大切さを実感できるように配慮した。

②ポートフォリオを作成することで、伝える相手や場面に合わせて、自己の学びをどのように構成してまとめるかなどの構想する力が育成される。加えて、第三者の視点から自己の学びを客観的に見つめなおして新たなよさに気付くなど、学びが深められるように配慮した。

(6) 学習意欲向上への工夫

・生徒が教科書を開くことに楽しみを覚え、高い意欲で学習に取り組めるよう、様々な工夫を施した。

①窓に見立てた穴を紙面に開け、日本の伝統的な家屋の窓と、現代の美術作品の一部として天井に開けられた窓を比較し、その考え方や効果の違いなどを実感をもって味わえるように工夫した。

②題材に関連したトピックや学びのヒントなどを枠囲みで掲載し、興味・関心を高めながら、学びが深まるよう工夫した。

③作品や図版等について、学習の目的を明確にし、具体的な解説を加え適切な大きさを考えて掲載することで、美術に対する様々な考えを知り、自分にはなかった見方や考え方を学ぶことの楽しさに気付くように配慮した。

(7) 「いつも隣にある美術」

・この教科書の学びのまとめとして、美術の活動は単に作品を表現したり鑑賞したりするだけではなく、日々の生活の中に美術は存在し、美術を意識することで楽しくなったり安らぎを感じたりすることができることを再認識することで、生活の中の美術の役割や、心豊かに生きることと美術とのかかわりなどについて考えることができるように巻末に示した。

II. 対照表

学習指導要領の内容の構成			
領域	A 表現	事項	
		(1) 絵画・彫刻	ア 独創的な主題を生成し、表現の構想を練る。 イ 主題に合った表現方法を工夫し、個性を生かして創造的な表現を追求する。
		(2) デザイン	ア 独創的な主題を生成し、表現の構想を練る。 イ 主題に合った表現方法を工夫し、個性を生かして創造的な表現を追求する。
	(3) 映像メディア表現	ア 独創的な主題を生成し、表現の構想を練る。 イ 主題に合った表現方法を工夫し、個性を生かして創造的な表現を追求する。	
B 鑑賞		ア 作者の主張、作品と時代や社会とのかかわりを考察し、自己の価値観や美意識を働かせて作品を読み取り味わう。 イ 国際理解に果たす美術の役割について理解する。 ウ 文化遺産としての美術の特色と文化遺産等を継承し保存することの意義を理解する。	

図書の構成・内容		学習指導要領の内容			該当箇所
		内容		内容の取扱い	
		A 表現	B 鑑賞		
オリエンテーション	美しいとは何か		ア	(1) (2)	p. 2・3
	切り取られた風景		アイウ	(1) (2)	p. 4~7
(1) 絵画・彫刻	興味のあることを描く	アイ	ア	(1) (2)	p. 8・9
	西洋のまなざしとの出会い		アイウ	(1) (2)	p. 10・11
	画家が追い求めたもの		アイ	(1) (2)	p. 12・13
	名画から受ける インスピレーション		アイ	(1) (2)	p. 14・15
	主張する美術		アウ	(1) (2)	p. 16・17
	彫刻と着彩		アイウ	(1) (2)	p. 18・19
	ものと場所による表現	アイ	ア	(1) (2)	p. 20・21
	空間に立ち現れるメッセージ		アイ	(1) (2)	p. 22・23
	自然が生みだす美 人がつくりだす美		アイ	(1) (2)	p. 24・25
(2) デザイン	情報の視覚化	アイ	ア	(1) (2)	p. 26・27
	デザインを支える技術		ア	(1) (2)	p. 28・29
	自然をまとう建築		ア	(1) (2)	p. 30・31
	歌舞伎の装い		アウ	(1) (2)	p. 32・33
(3) 映像メディア表現	報道写真が写し出すもの	アイ	アイ	(1) (2)	p. 34・35
	空からの視点		アイウ	(1) (2)	p. 36・37
	アニメーションの技法		ア	(1) (2)	p. 38・39
資料	文化財の保存と継承			(2)	p. 40・41
	自分らしさを伝える ポートフォリオ			(1) (2)	p. 42・43
	いつも隣にある美術			(2)	p. 44・45

